



にじのはし幼稚園 園だより

平成28年 3月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 新井智子



あゆみ

園長 新井智子

「先生は、いなくていい」遊戯室の小窓から、通りすがりに年長組の遊びの様子を覗いた時、気付いた子が慌てて私のところに来て言いました。「どうしたの」と聞くと「いなくていいよ」と再度答えました。どうやら遊びの進め方で意見が分かれたようで、どうすればいいかと、議論の真最中でした。『園長先生の助けがなくても自分たちで解決できる!』こんな思いをもち、私に説明するのももどかしかったのでしょうか。「みんなで解決できるのね。じゃ、園長先生は遠慮しましょうね。でも、『いなくていい』じゃなくて、『大丈夫です』って言ってくれたほうが園長先生もお任せできるし、嬉しいな」と言うと、はっとした顔をして「はい 大丈夫です。」と言い換えました。そしてまた遊びの場に戻り、話し合いの続きになりました。降園時、その子に「どうなった?」と聞くと「半分だけ解決した」と答えました。自分たちの問題を自覚し、解決に向けて粘り強く取り組み、達成度も認識している様子に感心しました。

もうすぐ修了を迎える年長児。そういえば3年前、この子は自分の思いをうまく伝えられず、泣いたり怒ったりすることで意思表示をしていました。友達と関わらず「ほしい」と「だめ」と「いや」で1日が終わることもあったと振り返り、懐かしい思いになりました。

この3年間、子どもたちは、どのような道を辿って、どのような経験を積んで成長してきたのでしょうか。にじのはし幼稚園での生活は、365日のうちの195日、1日24時間の中のたった4~5時間です。ご家庭での生活の重要性はもちろんのことですが、この幼稚園でのわずかな時間の重なりでも、私は自信をもって幼稚園教育が成長の大きな力になっていると言えます。

子どもたちにふさわしい創造的な生活が営める環境の中で、同年齢の子どもたちと関わり、ものに関わり、事象を取り込み、たっぷり遊びこみ、子ども社会を形成してきました。子どもたち自身が、遊びを通して生涯を生きていく基盤になる力を獲得してきました。一人一人が、自分の足で歩んできた道は、決してなだらかなだけではなかったでしょう。道標がなく、途方に暮れたこともあったでしょう。けれど、歩みそのものが力強く、しっかりと足跡を残していたと、私は実感しています。

今年1年間、教師は一人一人の歩みに添って、子どもにふさわしい経験ができる生活の営みを教育的に構成し指導してきました。子どもの成長の大きさからみれば、指導はほんの小さなものかもしれません。けれど、にじのはし幼稚園の教職員が心一つにし、子どもたちの成長を願い、真摯に教育に携わり精一杯努めてまいりました。このことは、保護者の皆様や地域の皆様の暖かなお力添えがなくてはできませんでした。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度20周年を迎えるにじのはし幼稚園、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



第三台場 おわかれ遠足